上越市立高志小学校学校だより　№1550　令和４年度　７号　令和４年10月20日

六花の輝き

＜教育目標＞
喜んで登校し、
生き生きと学ぶ子ども

〒943-0805 上越市木田３-１-２５
TEL　025-523-3858　FAX　025-525-7188
E-mail takashi@jorne.or.jp

◎校内音楽発表会

校　長　遠藤　和英

小学生独特の明るい歌声、低音高音二部に分かれて響き合う美しい歌声、迫力のある合奏、マーチングの管楽器の音･･･。高志小学校は、９月の中旬からこれらの音楽に包まれました。子どもたちは、校内音楽会を目指してそれぞれ練習を続けてきました。練習はもちろん音楽の時間が中心です。しかし、それ以外にも、休み時間に友達と輪になってリコーダーを演奏したり、友達と鏡に向かって自分の動きを確認したり、たった一人で黙々と木琴の練習をしたりする子どもたちの姿が、学校のあちらこちらで見られました。また、下校時、玄関前に集まった友達同士で自然に歌が始まり、それがそこにいた友達に伝染し、いつの間にか同じ方面に帰る子ども全員が歌いながら帰るなんていう場面も目にしました。そこには音楽の文字どおり、音を楽しむ姿が見られました。

そして迎えた 10 月 12 日。この日は子どもたちだけの校内音楽会です。１ 年生、元気のよい声と１ 年生のかわいらしい動作で見ている人を魅了していました。リズムを工夫した合奏が素敵でした。２ 年生、自分たちの育てた野菜への思いを込めた歌を明るい声で歌いました。みんなで楽器の強弱をはっきりさせて合奏を楽しんでいました。３ 年生、歌とリコーダーなどの楽器を一緒に工夫して演奏していました。曲に合わせて体育館をみんなの拍手で一杯にし、音楽の楽しさを伝えていました。４年生、曲のテンポや強弱を意識したとても迫力のある合奏でした。全員が指揮に集中し、頭声の澄んだ声で合唱していました。５年生、歌詞を大切にし、きれいな声を生かした２部合唱でした。合奏はリズムの速い曲に挑戦し、祭りの雰囲気がよく出ていました。６年生、校歌、初めて人前で演奏した RPG とも、以前に聴いた時より上達しており、練習の成果がはっきり出ていました。フラッグも曲に合っていて、凛々しい顔での演技が低学年のよきモデルとなっていました。手前みそになりますが、素敵な音楽発表会になりました。

そして子どもたちにとっては２回目の発表が、保護者の皆様にご覧いただいた 10 月 14 日でした。保護者の皆様の目には、子どもたちはどのように映ったでしょうか？

それにしても、今回の音楽発表会は、昨年に増して子どもたちの自主的、いや主体的な取組が目立ちました。この主体性、もっと分かりやすく言えば「やる気」はとっても大切です。まさに、今後、子どもたちに求められるのは、主体性、やる気です。学習で言えば、教えられるという受け身の姿勢から、自分から学ぶという能動的な姿勢です。能動的に取り組む方が効果が高いのは、誰が考えても明らかです。今回も、自分からもっとうまくなりたい、きれいに演奏したいと懸命に練習した子どもの主体性が、このような素敵な音楽発表会につながったのだと感じています。

しかし、以前にもお伝えしましたが、この子どものやる気を引き出すことは、簡単なことではありません。今回は、それぞれの学年が選択した演奏曲が適切で、子どもが演奏への思いを描きやすかったこと、また、練習の過程で教員が適切な評価を行い、このあと何に気を付けて練習していくとよいのか具体的な方法を示し、練習できる環境を整えたこと、そのため子どもたちが自由に繰り返しかかわることができたこと、かかわることでそれぞれの曲への思いを一層強くしたこと･･･、これらのことが原因だろうと自分なりに分析していました。こういう活動を家庭と学校で日々仕組むことができたら、子どものやる気が一層見られるようになるなと確信しました。同時に、正直、いつもいつもこのような活動を仕組むのは、本当に難しいだろうなとも感じました。

音楽発表会が終わった今も、校舎から発表した曲を演奏するリコーダーの音が聴こえてきます。音楽発表会での経験は、子どもたちの中に、大きな何かを残したようです。この経験を子どもも私たち職員も、今後の学校生活に活かしていきたいと思います。これからも、子どもたちが逞しく学校生活を送っていくのをどうぞ温かく見守ってください。